

## 胚移植の適否からみた各牧場の特徴について

北海道帯広市で開業され高受胎率を得ている川俣獣医師が「胚移植の適否からみた各牧場の特徴について」報告された内容で興味深い部分がありましたので、今回はその概要を紹介させていただきます。ポイントととして、適格な発情発見と記録，粗飼料の品質，ボディコンディション（BC）等をあげられています。何らかの参考になれば幸いです。

### 高受胎率の牧場

- A：経産・未経産牛を対象。発情は正確にチェック・記録。多頭飼育のため良好なBCの受卵牛の選抜可能。給与飼料は主に乾草，デントコーンサイレージと配合飼料。毎日パaddockにて運動。
- B：経産・未経産対象。特に未経産の発育が良好。発情は正確にチェック・記録。給与飼料は乾草，デントコーンサイレージ，パルプと配合飼料。
- C：主に未経産牛対象。フリーストールで飼育。高品質のデントコーンサイレージを給与。
- D：主に未経産対象。多頭数の中からBC条件のよい牛の選抜が可能。

### 平均的な受胎率の牧場

- E：経産・未経産牛を対象。経済を優先するため，給与飼料の内容変更が激しい。
- F：未経産牛を対象。年次ごとに受胎率のバラツキがある。牛が過肥傾向になると受胎率が低下。給与飼料はグラスサイレージと配合飼料。
- G：未経産牛を対象。発情の記録が正確ではない。傾斜のきつい放牧地で運動量は多い。給与飼料は乾草とスイートコーンを収穫した残渣と生パルプのサイレージ。
- H：主に未経産牛を対象。粗飼料の給与不足で育成牛の発育はあまりよくない。給与飼料は乾草，パルプと配合飼料。厳寒期に受胎率低下し，寝床が常に氷結した状態。

### 低受胎率の牧場

- I：未経産牛を対象。個体識別ならびに発情記録が不正確。乾草ならびにグラスサイレージの品質劣化が目立つ。
- J：未経産牛を対象。通常は育成牛を飼育しておらず，移植するため受卵牛を購入。育成牛の管理に不慣れ。
- K：未経産牛を対象。飼育頭数が少なく，受卵牛の選抜が難しい。BCのよい状態の牛の確保困難。
- L：経産牛を対象。胎盤停滞，子宮内膜炎が多発。産後のBCの回復が遅れる牛が多い。グラスサイレージの品質悪い。
- M：未経産牛を対象。管理スペースが狭く，多大なストレスを受けている。